

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

# 第57回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《思想・文学分野》

## 「永井荷風と日本のまちづくり —日本の近代化の是非を問う—」

講師：平安女学院大学教授、京都大学名誉教授 **高橋義人**先生

**【講演要旨】** 明治維新以降、日本は西欧から多くのものを学んできたが、学びそこなったものもまた数多い。そのひとつが「まちづくり」である。たとえば京都は日本でも最も美しい町のひとつと言われるが、その京都を訪れた西欧人の多くは、京都で美しいのは金閣寺・銀閣寺などの神社仏閣だけで、町は美しくない、古都の面影の多くが失われてしまっている、と言っている。

日本ではいかに「まちづくり」すべきか、まるで真剣に考えられていない。そのことを誰よりも深く憂慮したのは永井荷風だった。彼は西欧かぶれした日本人であり、西欧の眼で日本を眺めた。彼はまた山の手出身の東京人であり、それゆえ東京の下町に強く憧れた。

荷風の考える下町は江戸情緒の残る町だった。ところが東京の町から江戸情緒は年々失われていく。その喪失感関東大震災と第二次大戦によって加速されるばかりだった。

荷風は「明治の文明」に「江戸の文化」を対峙させ、日本の近代化を激しく批判した。だが彼は、自分自身がじつは西欧かぶれした近代日本人のひとりであり、日本の町の荒廃に自分も手を貸していることをよく知っていた。そんな彼は、ある日、ベルリオーズの『ファウストの劫罰』の歌劇版を見て、劫罰を受けるファウストを自分自身と重ね合わせずにはいられなかった。

日本のまちづくりの問題点、特に関西学研都市のまちづくりの問題点についても、みなさんと一緒に意見交換したいと思っている。

**【講師紹介】** 1945年栃木県生まれ。京都大学名誉教授、平安女学院大学教授。国際ゲーテ協会元理事、国際異文化交流独文学会前副会長。主著に『形態と象徴』（岩波書店）、『ドイツ人のこころ』（岩波新書）、『魔女とヨーロッパ』（岩波書店）、『グノーシス 異端と近代』（共著、岩波書店）、『グリム童話の世界』（岩波新書）、『10代のための古典名句名言』（共著、岩波ジュニア文庫）、ゲーテ『色彩論 完訳版』（共訳、工作舎）などがある。

日時：2018年3月29日(木)18:00～20:30  
会場：公益財団法人国際高等研究所  
参加費：2,000円(交流・懇談会費用を含む)  
定員：40名(申し込みが定員を超えた場合は抽選)  
申込：裏面のURLからお申込みください  
詳細：<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>  
締切：2018年3月25日(日)

 公益財団法人  
国際高等研究所  
International Institute for Advanced Studies

けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。

